

また少し離れた所の道路側に、もう一つの石碑がある。それも六部の墓だといわれている。

礼奉納大乘妙典日本回国

宝暦十一巳午白川領下小中邑

三月初九日 行者 常正

白雲道光信士 十二月廿五日

秋月道喜信士 十月 四日

下部は土に埋もれているが、下佐国とかすかに読まれる。村はずれにあり、六部や行者の墓が建てられているので六部塚の名が付けられたのであろう。
(話者 内山正雄)

天平の古碑

《古 館》

梓衝の字ほうぜん坊、(古館屋敷の西)の岡部墓地に古い碑がある。天平九年丁祀と読まれる。あまり古い碑なので、研究者の大部分は偽作だといっている。

「前々太平記」は次のように記している。

聖武天皇の天平七年に、筑紫の国より庖蒼が入り、八年には、京都附近が大流行となつて、上は公郷より



天平の古碑